

第16号
(平成28年7月)



あいいく

～愛を育み 地域と
ともに子育て支援～

発行者
社会福祉法人
半田同胞園
理事長
北村 正信



<住所> 〒475-0846 愛知県半田市栄町2丁目22番地

HP <http://dohoen.jp/>

本部・母子生活支援施設 TEL 0569-21-0645 Fax 0569-31-0645

保育所 TEL 0569-24-6645 Fax 0569-24-6654

◎「前理事長退任あいさつ」

前理事長 酒井なつ江



平成二十八年
五月十一日をもち
まして任期満了を
迎え、退任させて
いただきました。こ

れもひとえに皆様方のご指導、ご支援、
そして温かく見守っていただいたお陰で
あると思っています。誠に有難うござい
ました。

永年に亘り当法人の発展・運営に多
大なる貢献をされました前水野理事長
より、突如私に理事長のバトンを受けて
欲しい旨の相談がありました。私はもと
よりそのような器ではございませんので
固くご辞退申し上げましたが、結局止
むを得ず暫定期間ということになり、身
に余る重責をお受けすることとなりました。

そして三期六年が過ぎました。ふり
返り心に残っていることは、「母子生活
支援施設及び保育所の改築整備事業」
が完成したことです。県・市・地域の皆
さんのご協力を頂き、理事・職員の熱き
思いで一丸となつて完成したこの事業は
忘れることが出来ません。職員・関係者
一同の喜びはひとしおでした。またこの
年は、平成二十三年三月十一日の東日
本大震災及び原発事故発生という未曾
有の大惨事の年でした。

竣工の翌年前水野理事長より竣工記
念として、福島県三春町の樹齢千年と
も言われる国の天然記念樹の三春滝桜
の苗木をご贈りいただきました。現在大
きく育ち、春には美しい花を観せてくれ

ます。何故か優しさと勇気を頂きます。
この三春滝桜は未来永劫、半田同胞園
の庭で子どもを見守ってくれることと思
います。

さて私もそろそろ次にバトンを渡す
時と決めていました。幸い次期理事長に
は、半田同胞園理事として十年に亘り
貢献され、更に半田市教育委員として
永く就任され、立派にその任務を果た
されている北村正信様に理事会の義を
経てご就任いただくことになりました。

これからの社会福祉法人の経営は財
政的にも、また人材確保の面に於きま
しても厳しく苦難は続くと思われま
すが、利用者の幸せを求め、新理事長さ
んを中心に、地域福祉の拠点としてま
すます皆さんから信頼させる施設であ
り続けることを信じます。ありがとう
ございました。

簡単ではございますが退任のご挨拶
とさせていただきます。

◎「新理事長就任あいさつ」

理事長 北村 正信



保育所長として
理事長として長年
にわたりご尽力い
ただいてきた酒井
なつ江理事長より、
なつ江理事長より、

次期理事長としてのご指名をいただいた
ときには、半田同胞園保育所の卒園で
もなく、保育園のことも母子生活支援
施設のこと未だによく理解していない
私に、理事長の重い責務が務まるか。い
つたはご辞退させていただいたものの、
他の理事の皆様からも強い推薦をいた

だき、ある意味押し切られるような形
ですが、このたび、五代目半田同胞園理
事長としての役務をお引き受けさせて
いただくことになりました。ただ、お引
き受けした以上、知らないでは済まされ
るものではありません。皆様方のご指導、
ご助力をいただきながら、初めて半田同
胞園に入園した子どもたちになつたつも
りで精一杯頑張りたいと思います。ど
ぞよろしくお願いたします。

昨今は、多様化する働き方により保
育に対するニーズは増えると共に、一人
一人の子育てに求められる保育の質は
より高くなつてきています。また、母子
生活支援施設としては、入所理由が複
雑かつ多様化する中で、よりきめ細やか
な自立支援が求められています。そして
半田同胞園は常に時代の社会ニーズに
即した地域福祉の場であるべきと考え
ます。ただし、たとえ時代が変化し社会
に求められるものがより困難なものにな
ろうと、昭和十九年の設立以来の半田
同胞園の法人理念は決して変わるもの
ではありません。法人理念の実践、さら
なる事業の充実をめざしてまいります。

また、社会福祉法人制度の改革の中で
は、地域においてより公益的な取組が求
められ、事業については運営の透明性、
財務については非営利法人の原則のもと
財務規律の強化、経営組織については役
員や組織の意思決定の正当性が求めら
れています。半田同胞園としても、地域
に根ざし、地域に理解され愛される法
人であり続けることをお約束すると共
に、関係各位の皆様には何とぞこれまで
以上にご指導、ご協力を下さいますよ
うに願いたします。

半田同胞園保育所(保育所)

定員 261名

職員 所長1名・保育士34名
延長保育士23名・調理員5名
看護師2名・事務員1名
※平成28年4月1日現在

◎「平成27年度」「重点努力目標」の取組結果について

保育所長 青木 誠



平成26年度「第2回半田同胞園保育所評価」の評価結果や自由記述欄に寄せられた保護者の意見や要望を参考にして「平成27年度 重点努力目標」を6項目設定して実践することになった。以下、それらの取組状況について述べる。

- 保護者の協力のもと、「早起き・早寝・朝ごはん」の生活リズムを整えていく。
 - ・担任が、毎日、生活チェック表で「起床時間、就寝時間、朝ごはん」の欄のチェックを確認し、問題があれば保護者に伝えた。
 - ・保護者の記述欄に不明瞭な部分があるとの指摘を受け、次年度の課題とした。
- 「柳沢運動プログラム」「さくらさくらんぼリズム」を各年齢の発達段階に合わせて遊びの中に取り入れ、運動能力の発達をうながす。
 - ・0歳児から5歳児まで継続的に保育の中に取り入れて実践して

きた。乳児運動会、幼児運動会では、ふだんの成果を発表することができた。

○子どもが様々な体験をすること
で柔軟な動きができるようなり
保育所内での大きなけがは減っ
てきている。

○子どもからも保護者からも信頼
される保育士になる。

・保育所評価自由記述欄から、
保育士の言葉遣いや保護者対応
の問題点が指摘された。全職員
が真摯に受けとめて早急な改善
に努めた。

○園内・園外研修に積極的に参加
し、保育の質の向上を図る。

・半田市内や近隣の市町で行わ
れる研修会へ可能な限り、職員
を派遣した。
・愛知県現任保育士研修へ積極的
に参加させた。
・県外研修にもすすんで参加でき
る体制を整えて派遣することが
できた。
・外部講師を招いて勉強会を行っ
た。

○元氣よくあいさつのできる子ど
もの育成を図る。

・第2回の「保育所評価」において
も達成率80%を超えることは
なかった。保護者が判断するには
やや不適切な設問であったので、
次回の調査項目からは削除する
ことにした。
・あいさつ溢れる保育所をめざし
て様々な場面で具体的な取組を
している。朝の会で、「あいさつ

歌」を歌ったり、園長始め職員全
員で子どもや保護者にあいさつ
したりしている。

○防災教育の充実を図る。

・これまで定期的に実施してきた
各種避難訓練(地震・火災・不審
者対応等)の訓練内容を再検討
し、より現実的な避難訓練を実
施することができた。
・年間通して、半田消防署職員に
よる直接指導を受けながら、子
ども安全第一に訓練を重ねるこ
とができた。

・現役消防士に
よる現職教育を
行うことにより、
これまで実施し
てきた訓練内容
を考え直すきつ
かけとなった。平
成28年度も引
き続き指導を受
けて実践してい
く。



◎ 日々の保育の様子

「やったらできる!」運動会

保育士 新美 敦子



年中児は、運動会に向けて組体操に
取り組んできました。さくらんぼリズ
ムや、柳沢運動を通して、日々の生活の
中でつけてきている力を、どのように見
てもらおうかを考えてきました。暑い日
や、雨の日も、一生懸命練習を重ねて



きた子ども達。
足が痛いとい
う子、重たくて崩
れてしまう子、
練習中には様々
なことがありま
した。1人でも
欠けてはいけな
い、全員そろって
大きな力になる

んだよと、たくさん伝えてきました。1
人、2人、3人・・・と次々に仲間と組み
合わさり、最後は60人全員で栄光の
架け橋を作りました。運動会では、お
父さん、お母
さんからの称
賛を受け、達
成感に満ち溢
れた笑顔でし
た。最後まで諦
めず頑張った年
中さん。とても
素敵でした。



「お米が実ったよ!」

保育士 木下 和博

今年の春、お米作りに挑戦しようと
ホールの横に小さな田んぼを作りました。
6月には年長の子どもたちが水の
張られた田んぼに足を入れ、もち米の
苗を植えることができました。苗はぐ
んぐん成長し、10月にはみんなで稲
刈りも行いました。鎌を使って「よいし
よ、よいしょ」と稲を刈り、「はざ」に束
ねた稲をかけていくと結構な量に。沢



山のもち米が収穫でき、満足していると足踏み脱穀機をお借りできることになり、脱穀の体験までしてしまいました。ぐるぐると回る脱穀機のドラム

に稲の束を押し当てると、一瞬のうちに稲がとれ、子どもたちはとてもびっくりしていました。毎年恒例の餅つき会では、「自分たちで育て、脱穀したもち米」を使って、お餅つきができ、食べることできて、子どもたちにとつて、よい思い出になりました。



「みんなであつた愛(あい)車」
保育士 吉川 智香

平成27年度園展の幼児共同作品のテーマは、地域の山車まつりにちなみ「山車」に決まりました。日頃からお世話になっている竹のボランティアの方々から協力して頂き、廃材を利用して山車の土台を作つて頂きました。外遊び中に、少しずつ形になつていく様子を、柵ごとに集まっては見つけていた子どもたち。完成までに興味も高まり、幼児で手分けをして飾りを作っていました。年長、年中は博物館で本物を目にし、



からくり人形や、幕、看板や山車の内装などの細かい部分まで再現し、年少も飾りとなるお花や光る玉を作り、参加する楽しさを味わうことができました。山車の名前は園章の「愛」の字をとつて「愛(あい)車」に決定。みんなの思いが詰まった愛車の周りの壁には、幼児一人一人の顔を描いた紅白の幕を飾りました。園展当日には、保護者の方と一緒に訪れた子どもたちが、「ぼくもつくつたんだよ。」と嬉しそうに話す姿がありました。後日、園庭にて山車の引き回しを行いました。自分たちの手で山車を動かすことができ、貴重な経験の一つとなりました。

できました。山車の名前は園章の「愛」の字をとつて「愛(あい)車」に決定。みんなの思いが詰まった愛車の周りの壁には、幼児一人一人の顔を描いた紅白の幕を飾りました。園展当日には、保護者の方と一緒に訪れた子どもたちが、「ぼくもつくつたんだよ。」と嬉しそうに話す姿がありました。後日、園庭にて山車の引き回しを行いました。自分たちの手で山車を動かすことができ、貴重な経験の一つとなりました。

「セントレア見学」
保育士 加藤 麻友

年長での生活も残りわずかとなった3月。セントレア見学へ出掛けました。当日は朝の満員電車に乗り、乗り換えも経験した子どもたち。セントレアでは、グループに分かれて見学を楽しみました。中でも子どもたちが



一番目を輝かせて見ていたのがスカイデッキでした。たくさん並ぶ飛行機に、「すごいね。」「ぼくあれに乗ったことある。」と口々に言い合ったり、青空に向かって飛んでいく飛行機に手を振ったりと大興奮でスカイデッキからの眺めに夢中になる姿がありました。初めてみんなで行った場所であり、貴重な経験ができた一日。保育所生活最後の心に残る思い出となりました。



「おだんごやき」
保育士 長尾みどり



「おやつ、おだんごだ。」
午後のおやつが団子の日は、朝から大喜びの子どもたち。団子屋のおじさんに渡す団子券の色ぬりをしながら、「おいしいおだんご、ありがとっつてかいて。」と保育士に言う子もいます。お団子が大好き、おじさんも大好きなのです。

「おだんごください。」「はいよー。」
自分で作った団子券で団子を買うのですが、目の前で焼いてくれる団子を

見つけてワクワク。

部屋に戻って、さあ、お団子タイム。口のまわりにタレをつけながら。「おいしい。」と笑顔で団子を頬張ります。「おかわりちょうだい。」と言って保育士の団子に手を伸ばす子もいて、油断はできません。

おいしいおいしい団子の日。「おじさん、また来てねー。」とお見送りするまで、笑顔がいつはいです。



◎ 調理室の改修工事の様子
調理員等 森下 華名



昨年度、調理室の改修工事をしていただきました。工事期間中は様々な面でご迷惑をおかけしましたが、お陰様できれいになりました。調理室のドアは子どもたちでも力を入れずに開けられるようになりました。以前は硬くて開けられない子もいたり、大人も荷物を持ちながらだと大変でした。床はウエット方式からドライ方式になりました。衛生面も





え、みんなで盛り上がりました。そして、卒園イベントとして、デジタル芸人のア

「一年間の活動を振り返って」
27年度会長 大橋 英二

平成27年度の大空会会長を一年間務めさせていただきました。一年間は、「子どもも、大人も楽しめる」というテーマで活動しました。夏祭りでは、バザーやゲーム、大人大興奮の大抽選会。運動会では、大空会競技として、棒引き。引つ張る棒を、フライパンやお菓子の棒に変

◎ 保護者会(大空会)の活動の様子



「危うく…」があつたのでこれで安心です。改修工事にあたり、私たち調理員の意見を何度も聞いて考えを取り入れてくれてとてもうれしかったです。今の清潔さを維持できるように掃除をしていきたいと思います。



よくなり、掃除がとてもしやすくなりました。凹凸もなくなつたので作業がしやすくなりました。焦っているところと少しの段差につまづいて

キラボーイさんに来園していただきました。映像にふれあうことで、子どもたちが夢中になってくれました。一年間のさまざまな活動の中で、子どもたちの笑顔がたくさん見られ、私自身とても幸せな気持ちになりました。

しかし近年では、子どもが犠牲になる事件が多く、記事を目にするたびに胸が痛くなります。そうあつてはならないと保護者一人一人が考え、子どもが成長していく中での様々な問題に向き合っていかなければなりません。これから、子ども達を養っていく中で、楽しいことばかりではありませんが、子どもたちが笑顔になり、楽しく過ごすためには、親が楽しく毎日過ごすことだと考えます。「子どもも、大人も楽しめる」ということが、この活動を通じて少しでも感じていただければ、うれしく思います。

◎ 半田同胞園保育所内での特別保育事業実績



- ・延長保育事業 月平均2,538人 (日平均 早期32人、延長103人)
- ・一時保育事業 年間延1,423人
- ・病後児保育事業 年間26人
- ・園庭開放(毎週月曜日) 227組478人
- ・子育てサロン(毎月第2・3・4の月曜日に地区の民生、児童委員さんのボランティアによるびよんびよん村、ふれあい広場(同胞園ホールにて) 143組295人

子育て支援事業(半田市委託) <半田市市民交流センターでの実施>

平成18年度から、知多半田駅前子育て支援センター内で、乳幼児一時預かり事業及び親子で遊ぶプレイランドの実施。10年目の委託

◎ 子育て支援事業

転入・転出・地元でない方たちが多く、プレイランドで遊びながら、行事などを通して友達作りをしているように思う。育児で孤立せず、楽しく子育てが出来る場の手助けができる事を嬉しく思います。

地域支援「みんなあつまれ！」で市内の保育園・幼稚園に行き、園長先生のお話を聞いたり、園内の見学をしたりする会の時には多くの参加がある。やはり今の世の中、入園についてお母さん方は強い関心があることを実感します。

◎ 乳幼児一時預かり事業

仕事・両親のリフレッシュ・兄弟の行事など利用される理由は様々です。0・1歳児の利用が多く、その中に繰り返して利用して下さる方もみえます。

初めての預かりの時は、母と離れる際に泣いてしまうので、母は不安な顔で出かけて行きます。しかし帰ってきて楽しそうに遊んでする我が子の姿を見て、ホッとして抱きしめる素敵な姿を見ると嬉しくなります。今後もう少しでも育児の助けになればと思います。

◎ 子育て支援事業及び乳幼児一時預かり事業の実績状況

区分(単位)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
プレイランド利用者数(人)	3,720	3,901	4,293	5,092	5,207	4,583	4,045	4,396	3,390	3,688	3,582	3,800	49,705
レットトライ1・2・3利用者数(上段・組/下段・人)	61/143	39/85	42/91	53/117	63/156	72/166	67/153	47/107	43/101	37/79	49/115	48/111	621/1,424
リズムで遊ぼう利用者数(上段・組/下段・人)	78/162	38/77	47/87	42/91	55/130	50/111	43/95	41/88	30/64	46/94	49/108	33/71	552/1,178
みんなで遊ぼう利用者数(上段・組/下段・人)	48/98	50/112	60/132	63/142	62/147	40/84	101/222	47/99	68/146	36/83	50/112	29/66	654/1,443
相談件数(件)	29	40	62	46	55	40	38	31	23	28	29	25	446
幼児一時預かり利用者数(上段・人/中段・0歳児、人/下段・小学生、人)	157/17/6	180/18/5	160/12/1	158/17/2	146/7/3	144/13/0	182/15/6	172/15/2	149/13/4	118/15/0	142/18/3	229/24/2	1,937/184/34

- ・プレイランド利用者数
- ・レットトライ1・2・3利用者数
- ・リズムで遊ぼう利用者数
- ・みんなで遊ぼう利用者数
- ・相談件数
- ・乳幼児一時預かり利用者数

半田同胞園(母子生活支援施設)

【定員】 20世帯(サテライト5世帯)

【職員】 施設長1名、主査(被虐待児個別対応職員)1名、母子支援員3名、少年指導員3名、心理担当職員1名、特別指導員1名、母子自立支援員1名、サテライト補助員2名、嘱託医1名 計14名 ※平成28年4月1日現在

◎平成27年度母子生活支援施設事業報告 施設長 鷲野林平



平成27年度の重点努力目標についての取組結果を報告します。

○全体テーマ

厚生労働省が発行した「母子生活支援施設運営ハンドブック」にもとづき、母子生活支援施設の役割と理念を明確にし、さらには将来像を描き、施設全体、職員個々として利用者及び地域に対し、最善の支援を目標とする。

この目標について、「運営ハンドブック」をもとに、勉強会、研修会等の実施はできませんでしたが、日々の利用者支援の中で、「母子生活支援施設は「生活の場」であり、「問題解決の場」であることを確認することができました。

○利用者支援

「生活の場」における日常生活支援と利用者の抱える複雑で多様な課題をもとに解決する「課題解決」支援を組み合わせ

わせて総合的に展開し、生活を支え、自立に向けての支援を実施する。

この目標について、職員全体で、母子の意見を聞き取り、気持ちを把握するように努めました。利用者間のトラブルもしばしばありましたが、母子支援員、少年指導員を中心にその都度しっかりと話を聞き、解決に向けて調整を図ることができました。



○職員育成・連携

ソーシャルワークや保育を基盤とした高い専門性が求められており、その専門性を研修等でたえず見直し、また、チームワークを大切に、利用者の状況やニーズ、支援に関する情報を共有し、利用者信頼される職員集団を形成する。この目標について、少年指導員を新規採用し、適切なアドバイスをする中で、

育成に取り組みました。職員連携については、未措置保育、入退所の対応等に職員の連携及び協力のもと適切な対応をすることができました。職員研修については、研修計画に基づき、県外、県内の研修に積極的に参加することができ、職員個々のスキルアップはできました。また、定期的に元大学教授をお招きし、ケース検討会を実施し、利用者理解に努め、今後の支援の方向性を明らかにすることができました。

○一時保護及び地域支援

母子生活支援施設に期待される役割の変化を踏まえながら、一時保護及び子育て短期支援、さらには地域支援

のための事業を積極的に展開し、地域で生活する母子及び児童が安心して過ごすことができるように環境整備する。

この目標について、緊急的に保護が必要である母子や子どもへの受入れをすることができました。特に、子どもの受入れについては、普段と変わらない生活を送ることができるよう学校、保育所等と連携を図りながらの対応をすることができました。地域支援事業については、平成27年4月から施行された、「生活困窮者自立支援法」の事業実施の一環として、半田市が組織する「半田市生活困窮者自立支援ネットワーク協議会」に職員が参画し、地域で生活する母と子が安心して過ごすことができる環境、特に、学習環境の整備を検討し、「負の連鎖」を断ち切るための事業実施について検討することができました。

○入所状況・行事等

入所状況は、月平均約17世帯、児童数は月平均約35人(乳幼児17人、学童等18人)でした。入所世帯は23世帯で、入所理由は夫等からの暴力、経済的な理由等です。退所世帯は18世帯で、退所理由は様々な問題が解決でき、日常生活身の自立の割合が高くなっています。中には問題の解決には至っていないが、施設の生活に慣れずに退所するケース、母が入院することになったケース等もありました。

一時保護の受入れは5世帯で昨年と同じ件数でありましたが、延べ日数は昨年よりも短くなりました。半田市及び

近隣の知多市、常滑市からの子育て短期支援事業として5世帯の受入れをし、母親の出産等で子育てができない場合の支援をしました。

母親の就労支援や育児支援の一環としての補完保育等は、延べ373件でした。内訳は補完保育が一番多く142件、次に、祝日保育が104件、未措置保育94件の順となっています。

行事については、親子スポーツ大会、日帰りバス旅行、年忘れ会等の全体行事、キャンプ等の児童行事を開催しました。参加した母も子も楽しそうに過ごしていました。



親子で野間海水浴

将来、施設職員、保育士を目指す学生等の実習の受入れは、施設として人材育成の一環であり、地域貢献の一つでもあると考え、積極的に取り組むことができました。

また、行事、イベント等にJA職員のみなさんはじめ、日本福祉大学、名古屋短期大学等の学生のみなさんのご参加ご協力をいただき、地域のみなさんとの



ボランティアと地域散策

交流を深めることができました。また、国際交流ボランティアのみなさんの協力を得て開催している「日本語教室」も定着してきており、外国籍のお母さんが日本語のみならず、日本の文化・風習についても教えていただいております。

最後に、地域のみなさんから衣類、書籍、食料品、お菓子等、たくさんのお返しをいただいております。また、ボーリング等への招待もいただきました。施設で生活する母と子はとても喜んでいました。本当にありがとうございます。今後もご支援、ご協力いただきますようお願いいたします。

◎「母に感謝の集い」

少年指導員 中井佳代



毎年恒例行事の中で、母の日に近い金曜日に行われる「母に感謝の集い」という行事を紹介いたします。平成28年度は5月6日に開催されました。

行事内容は、施設内のホールで母の日の手作りプレゼントを子から母へ渡し、会食(ちらし寿司とお吸い物等)をしながら、家族の記念撮影をするという内容で1時間ほどの行事でした。



発表の歌やメッセージを考えました。歌はAKB 48の「365日の紙飛行機」に決まりました。とてもやさしいメロディーと歌詞で母の日にピッタリでした。年頃の男子児童で「この歌やだ〜」と言っていた子が本番では一番大きな声で上手に歌っていました。そして、舞台の上から一人ずつお母さんに感謝のメッセージを発表しました。どの子もお母さんに「ありがとう」、「大好き」という素直な気持ちをしっかりと伝えることができ、その姿は、私たち職員までが元気をもらう瞬間でした。

子ども達全員が、母に向けてカーネーションとプレゼントを渡す時間もありませんでした。乳幼児さんのプレゼントは「お絵かき雑巾」でお母さんのかわいい顔や芸術作品?ができあがりしました。母になり、初めてわが子からもらうプレゼントに笑顔がこぼれる、ほほえましい場面や自分で書いた絵を母に説明する子の様子は「ありがとうの気持ち」もあふれていました。

小学生以上の児童は手作りでフレーム写真を作り、「笑顔をプレゼント」しました。年頃の児童の照れ笑いの笑顔やかわいい笑顔をお母さんに届けることができました。集いが終わりホールを後に、帰宅する親子の様子を見ると、子どもたちか

らは「お母さんありがとう。大好きだよ」。お母さんからは「みんながいるから頑張れるよ。ありがとう」。こんな言葉が聞こえてくるようでした。

◎カルチャースクール 書道編

母子支援員 鈴木美喜子

昨年までは、母親行事として「教養講座」を開催していました。内容は、半田同胞園展に展示する作品(キャンドルやわらじ等)づくり等が主で、開催は日曜日の午前中、年3回の実施でした。しかし、日曜日の午前中は「ゆっくりしたい」、「子ども達と過ごす時間になりたい」等、お母さんからの要望がありました。このような要望を踏まえて、開催時間、曜日を変更して、「カルチャースクール」として、金曜日の夜間に「書道教室」を開催しました。講師は地域で長年書道塾を開いている稲生洋子さんをお願いしました。参加したお母さんは先生からお手本をもらい、1時間ほど練習しました。普段は元気いっばい、大きな声で話をするお母さんたちの久しぶりに「書道」に取り組み様子は、いっばい静かでした。



この静寂の中にも和気藹々とした雰囲気もあり、あつという間に時間が過ぎていきました。職員も一緒に参加し、お母さんたちとの交流を深める

ことができました。参加者全員が墨の臭いで心豊かになり、次回は、「行書」に挑戦したいと意欲満々で教室は終了しました。お母さん、職員が一生懸命書いた作品を施設内に展示し、「書道教室」の開催について報告をしました。展示された作品をながめるお母さんたちからは「〇〇さん上手だね」「今回は参加できなかったけど次回は参加してみようかな」という声も聞こえてきました。今後、このカルチャースクールも地域の方々の協力をいただきながら、お母さんが参加したいと思ってもらえるような内容にしていきたいです。

法人(社会福祉法人 半田同胞園)

◎役員紹介(理事9名・監事2名)

※平成28年5月12日現在

【顧問】 水野 八洲男

【理事】 9名 「理事長」 北村正信 (平成28年5月12日より就任)

【理事】 酒井なつ江・水野源次

杉浦勝子・安戸洋子・手島寿宏

犬塚 清・青木 誠・鷺野林平

【監事】 2名 近藤敏通・二宮公平

◎第三者委員紹介(二名)

酒井宏造・澤田圭造(平成28年5月12日より就任)



◎ 理事会の状況(年四回)

第1回 平成27年5月22日

一、平成26年度 事業報告書案 二、平成26年度 法人資金収支決算書案 三、定款の一部変更案

第2回 平成27年10月7日

一、保育所調理室改修工事指名競争入札案 二、平成27年度 法人資金収支第一次補正予算案 三、職員就業規則及び給与規程の一部改正案

第3回 平成28年2月17日

一、平成27年度 法人資金収支第二次補正予算案 二、個人情報保護規程案

第4回 平成28年3月23日

一、職員給与規程の一部改正案 二、職員就業規則2(非常勤職員用)の一部改正案 三、平成26年度 法人資金収支第三次補正予算案 四、平成28年度 事業計画案 五、平成28年度 法人資金収支予算書案 六、役員の選任案

◎ 職員の採用・退職状況

(※ 非常勤採用)

退職 (平成27年度末)

保育所 保育補助 山本希美 延長保育士 ※斉藤容子、間瀬祐子

母子生活支援施設 サテライト母子支援補助 ※山田啓子 事務員 ※岩田千香子

子育て支援・幼児一時預かり事業 (子育て指導員 ※安井桂子、牧野清子)

採用 (平成28年4月1日)

保育所(正式採用) 保育士) 出口友美 ※保育士 中山由紀、三木真弓

母子生活支援施設 (正式採用) 少年指導員 市野淳巳

子育て支援・幼児一時預かり事業 (正式採用) 子育て指導員 竹内佳代子

異動 (平成28年4月1日)

保育所 延長保育士 ※木庭有里子

◎ 寄附

法人



坂文種報徳会様(金35万円)、(株)ファミリ様(金57,84万円)、畔柳貴一様(金9万円)、竹内廣治様(金1万円)、母子世帯に餅購入、水野八洲男様(三春滝桜の石碑)

母子生活支援施設

◆義援金: 社会福祉法人愛知県共同募金会・報道機関7社様

◆食料品等: 社会福祉法人中部善意銀行様(全世帯へ食料品セット)、杉浦秀則様(全世帯へみかん一箱とバナナ)、株式会社さんわコーポレーション様(鶏肉)、パチンコミカド様(お菓子たくさん)、カブス半田青山店様(食料品たくさん)

おいしい村 末松園子様(野菜多数)、高橋直紹様(お菓子多数)、ハッピーサンタ実行委員会 永田弘継様(お菓子セット)、伊藤 寛様(クリスマスケーキ)、日用品雑貨等: 眞金正幸様(生活用品たくさん)、半田幼稚園育友会(生活用品)

生活用品、半田市社会福祉協議会(日用品多数)、眞金豊治様(日用品多数)

◆衣料品等: 有限会社カジミツ松宮様、半田幼稚園育友会、グスクマリ香子様、戸田光子様、山口八代様、竹内厚美様、神原様

◆その他: 有限会社カジミツ松宮様(カブトムシ幼虫)、廣瀬コリーナ様(男児用靴)、澤田様(ボーリング招待)、高木 信様(紙多数)、学校図書館に本いっぱい運動推進連盟様(絵本多数)、末日聖徒イエスキリスト教会刈谷ワード様(クリスマス慰問)

保育所

尾張製煎合資会社 神原総一郎様(麦茶1ケース相当)、パチンコキング様(お菓子たくさん)

◎ 苦情への対応について(27年度)

母子生活支援施設

件数 15件

◆苦情の対象別件数

① 利用者間 7件

② 職員 6件

③ 施設 2件

保育所 件数 0件

※今年度より、苦情の詳細については、法人のホームページにて掲載しました。

◎ 第50回半田同胞園展の様子



半田市長より 来賓代表御挨拶



たくさんの来賓にお祝い頂く



50回記念 餅まき



乳児の作品展 (ホールにて)



地域の作品展 (ホールにて)



母子施設利用者作品展



同胞園寄席

◆ 第50回半田同胞園展記念 「三春滝桜の石碑」を寄贈

28年2月に、顧問 水野八洲男様より、園庭の滝桜の前に貴重な伊達冠石の石碑を寄贈していただきました。

石碑には、「同胞(はらから)の 夢の三春の滝桜」と刻まれています。感謝



平成 27 年度の法人の経営状況(総括表)

平成28年4月1日
社会福祉法人半田同胞園

(自)平成27年4月1日(至)平成28年3月31日

(自)平成27年4月1日(至)平成28年3月31日

1. 法人単位の資金収支の状況 第1号の1様式

項目	金額(千円)
(1)事業活動資金収支差額	5,807
①事業活動収入	344,891
・児童福祉事業収入	88,292
・保育事業収入	252,108
・借入金利息補助金収入	20
・経常経費寄付金収入	1,112
・受取利息配当金収入	32
・その他の収入	3,327
②事業活動支出	339,084
・人件費支出	280,370
・事業費支出	35,870
・事務費支出	22,711
・支払利息支出	73
(2)施設整備等資金収支差額	▲ 8,112
①施設整備等収入	3,252
・施設整備等補助金収入	1,305
・施設整備等寄付金収入	1,910
・固定資産売却収入	37
②施設整備等支出	11,364
・設備資金借入金元金償還支出	4,656
・固定資産取得支出	6,708
(3)その他の活動資金収支差額	▲ 17,323
①その他の活動収入	8,170
・積立資産取崩収入	8,170
②その他の活動支出	25,493
・積立資産支出	25,493
当期末資金収支差額	▲ 19,628
前期末支払資金残高	60,744
当期末支払資金残高	41,116

平成28年3月31日現在

3. 法人単位の資産等の状況 第3号の1様式

項目	金額(千円)
(1)資産の部	768,547
①流動資産	67,428
・現金預金	24,096
・未収金	23,148
・未収補助金	19,167
・前払金	1,017
②固定資産	701,119
・基本財産 建物	553,438
・その他の固定資産	147,681
・建物	10,381
・構築物	1,916
・機械及び装置	103
・車両運搬具	1,957
・器具及び備品	9,427
・権利	12
・ソフトウェア	1,059
・退職給付引当資産	18,975
・施設繰越積立資産	63,500
・施設・設備整備積立資産	38,410
・その他の積立資産	1,191
・差入保証金	750
(2)負債の部	117,843
①流動負債	30,968
・1年以内返済予定設備資金借入金	4,656
・未払費用	24,071
・預り金	134
・職員預り金	2,107
②固定負債	86,875
・設備資金借入金	67,900
・退職給付引当金	18,975
(3)純資産の部	650,704
・基本金	29,503
・国庫補助金等特別積立金	403,002
・その他の積立金	103,101
・次期繰越活動増減差額	115,098
(うち当期活動増減差額)	▲ 5,382
(2)(3)負債及び純資産の部合計	768,547

2. 法人単位の事業活動の状況 第2号の1様式

項目	金額(千円)
(1)サービス活動増減差額	▲ 8,624
①サービス活動収益	341,243
・児童福祉事業収益	88,292
・保育事業収益	252,108
・経常経費寄付金収益	1,112
・その他の収益	▲ 269
②サービス活動費用	349,867
・人件費	282,653
・事業費	35,870
・事務費	22,401
・減価償却費	21,846
・国庫補助金等特別積立金取崩額	▲ 12,903
(2)サービス活動外増減差額	3,206
①サービス活動外収益	3,279
・借入金利息補助金収益	21
・受取利息配当金収益	32
・その他のサービス活動外収益	3,226
②サービス活動外費用	73
・支払利息	73
経常増減差額	▲ 5,418
(3)特別増減差額	36
①特別収益	3,251
・施設整備等補助金収益	1,305
・施設整備等寄付金収益	1,910
・固定資産売却収益	36
②特別費用	3,215
・固定資産売却損・処分損	0
・国庫補助金等特別積立金積立額	3,215
当期活動増減差額	▲ 5,382
前期繰越活動増減差額	135,520
当期末繰越活動増減差額	130,138
その他の積立金取崩額	8,170
その他の積立金積立額	23,210
次期繰越活動増減差額	115,098

*詳しくは、社会福祉法人半田同胞園ホームページを参照ください。 <http://dohoen.jp/>